

酢糖の使用法(ピーマン)

【アミノ酢糖】…根張りの向上、高温障害の軽減、成疲れの軽減など。

○定植前後の使い方

定植の1週間前にアミノ酢糖 500倍液をポットに手漉水
(購入苗の場合は箱から出した時に1回目を漉水)



定植時の根占めにアミノ酢糖 500倍液を根占漉水



定植1週間後に再度アミノ酢糖 500倍液を株元に手漉水
(液肥との混用も可能です。)



漉水チューブへ以降



○定植以降の使い方

漉水チューブでアミノ酢糖 10aあたり1~2リットルを2~3回/月流す
(液肥と混用しての漉水が可能です。)

【ルビスク】…樹勢回復(抑制)、成疲れ対策

○基本的な使い方

花が咲いた時から、ルビスク 800倍液を葉面散布
7~10日間隔

収穫が始まるまでルビスク 800倍(単剤)で散布。



その後は、ルビスク 500~800倍+尿素(同じ倍数)を7~10日間隔で
葉面散布します。



【酢糖 Ca2号】… 尻腐れ対策

○尻腐れが発生したら、酢糖 Ca2号 500倍を3日おきに3回散布。

○予防散布の場合は酢糖 Ca2号 800倍を定期的に散布する。

※樹がはしる時、着花(果)時、曇雨天が続く時などは尿素を外して使用します。

※農薬との混用も可能ですが、アルカリ性の農薬との混用は薬害が出ますので避けて下さい。
また、展着剤は必用ありません。

(水和剤など、果実の汚れが懸念される場合は、展着剤を優先してください。)

~問い合わせ先~

ファームテック株式会社

0120-23-2335